

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5 年 2 月 9 日

公表: 令和 5 年 月 日

事業所名 da・monde WEST

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4		必要に合わせてパーテーションで区切り個室を確保している。	学習机や椅子をこまめに移動することでのスペース確保を今後も継続していく。
	2	職員の配置数は適切である	4			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	3	室内のらせん階段を使用する際は、必ず職員が付き添うようにしている。	車椅子の利用者がいるが、2階へ上がるのに階段しかない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			振り返りの時間をしっかりと設けていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			アンケート結果などから業務改善に努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		ホームページにて掲載	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			オンラインの研修も含め、情報収集に努め研修の機会を増やしていく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		半年に1回以上、面談をし見直しを行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			成長に合わせ都度、情報を更新して行く。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		季節感が感じられる内容を心掛けている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4			長期休みを利用して外出活動を増やしていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			柔軟に対応していけるよう、いろいろな活動を計画に取り入れられるようにしていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		朝礼もしくは昼礼を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	送迎時間や勤務時間の違いで職員が揃わない時は、翌日振り返りを行う。	業務日報も書いているが、口頭での伝達が多いので大事なことは文字で残したい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		入退室、検温、おやつ提供の有無など記録用紙を用いて正しく記録を取ることを習慣にしている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		半年に1回以上、面談や日々のやり取りから得た情報を元に支援会議を開き見直しを行っている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4				

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			開催されれば、しっかりと参画していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4			メールシステムやお便りなどで知らせてもらっている。 保護者からも情報が入る。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	1	服薬管理は、保護者からの依頼を受け行っている。	現在は、対象者の受け入れが無い。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	相談員から情報提供を受けている。	必要であれば、情報提供を依頼していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4		求められれば保護者の同意の上対応している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		4		協議会等へ参加し、つながりを築いていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		4		児童クラブがある交流館の利用などで、交流する機会が設けられるよう働きかけていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		4		協議会の開催が少ない。今年は、参加予定。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		連絡ツールや送迎時に様子をお伝えしている。	
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		4		相談、傾聴、助言がおこなえるよう、職員は研修を行い、知識を付けていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		面談時や送迎時、連絡ツールでのコメントのやり取りなどで相談に応じる環境を整えている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4		コロナが流行してから、集まることは、控えている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			苦情があった時には、迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		月に1度ブログの更新、活動予定の配布。	
	35	個人情報に十分注意している	4			掲示物やブログ写真掲載など注意を払っていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		手話やジェスチャーでの会話もを行い、分からない場合は、保護者の協力も得て理解できるよう努めている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		地域の方を招待する行事の開催は難しいが、交流できる機会を設けていけていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1		マニュアルの確認、周知を行なっていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			周辺施設への協力が得られるよう働きかけていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		常に意識した行動が取れるよう各自日々の振り返りを行っている。	利用者対応記録の記入。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		個別支援計画に掲載し説明している。	身体拘束せずに対応できないかを検討。やむを得ない場合には、記録に残す。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		保護者から情報を得て対応	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハット報告書を回覧し共有した後も、ファイルを作成し職員がいつでも閲覧できる状態になっている。	